

令和8年度 第1回 社会教育委員の会議 摘録

- 【日 時】 令和8年7月27日（月） 14時00分～15時30分
- 【場 所】 大牟田市 生涯学習支援センター 1階 多目的室
- 【出席委員】 弓削委員、堺(婦)委員、西田委員、松尾委員、田中(吉)委員、江崎委員、蓮尾委員、田中(博)委員、柿川委員、堺(裕)委員
- 【欠席委員】 中村委員、倉本委員、瀬戸山委員
- 【行政関係者】 大倉野市民協働部長、木下生涯学習課長、
坂口生涯学習課地域学習担当課長・社会教育主事、
村上人権・同和・男女共同参画課長
西村スポーツ推進室長、深町世界遺産・文化財室長
本田生涯学習課地域学習担当主査、藏本生涯学習課次世代育成担当主査
江口生涯学習課社会教育振興担当、岩橋生涯学習課地域学習担当

◆委嘱状交付

今年度は社会教育委員の一斉改選にあたり、全委員に委嘱状を交付。
任期は令和10年6月30日までの2年間。

◆あいさつ

大倉野市民協働部長

◆自己紹介（委員および職員）

令和8年度社会教育委員の名簿順に自己紹介、続いて行政関係各職員の自己紹介を行う。

◆社会教育委員の会議について

社会教育法・社会教育委員設置条例や社会教育委員の職務、委嘱基準等について、坂口社会教育主事より説明。

◆議長・副議長選出

互選により、議長に堺（裕）委員、副議長に江崎委員が就任。

◆福岡県社会教育委員連絡協議会評議員について

前期同様、堺（裕）委員に委任することを確認。

◆議事

（1） 令和7年度社会教育委員の会議等実績報告及び令和8年度事業計画（案）について

事前配布資料「令和7年度 社会教育委員の会議等事業実施報告」、「令和8年度 社会教育委員の会議等事業計画（案）」を基に、坂口社会教育主事より報告・説明を行った。
（意見・質問なし）

(2) 令和7年度社会教育振興プランの進捗について

参考資料3「大牟田市社会教育振興プラン2024～2028」および資料冊子内資料3のP. 6～P. 7「令和7年度社会教育振興プランの進捗について」に基づき坂口生涯学習課地域学習担当課長より説明と報告。以下の意見・質問が出た。

議長	生涯学習ボランティア登録派遣事業について、延べということは同じ人が何回も登録しているという事か。個人でも、団体でも登録している人がいるか。
行政職員	個人・団体の両方に登録されている人はいる。延べ数は、個人と団体の数合わせた数になっている。
委員	次世代を担う子ども達が何かする、ということは学校・地域の大人が環境をどうつくっていくかということになるが、地域側のコーディネーターを誰が担うかが見えにくい。教育委員会の中に社会教育部門が無く、学校との連携も取りづらい中、行政的にどこに位置づけるのか。まちづくり協議会がその役割を担っていると感じているが、他自治体では公民館がその役割を担っており、持続可能な仕組みとして成り立っているところが多い。大牟田市では、そこがどうつながっているのか、自分の勉強不足でどこがこういった役割を担っているのかわかりにくい。
行政職員	行政の中では、まずは地区公民館が役割を果たすべきかと考えている。地区公民館では、学校ESD、地域ESD事業等を行っているが、そこが実感として感じられていないということは、地区公民館側の働きかけやコーディネート力が弱いのではないかと改めて感じている。地区公民館は地域の人材や各団体等とのつながりをもっているが、まだ弱い部分もある。まちづくり協議会や各団体をつなげていくというコーディネーターの役割は地区公民館が担うべきと考えているので、強化したい。また学校とも積極的に打ち合わせをしながら連携を強化していきたい。
議長	インフォナビゲーターとはどういう事業か。
行政職員	当該事業は令和6年度に終了している。地域で、デジタルデバイト、情報格差があるので、苦手な方をサポートする人を育成する事業。 7年度は、公民館のスマホ操作講座受講経験者が、スマホ助け隊のような形で、スマホ操作がわからない高齢者へ、簡単な操作内容について教えるような取り組みを行っている。講座受講者が相談窓口で対応する等、講座終了後も関わっている。 インフォナビゲーター事業は、少しレベル高い内容で行った。地域住民の中には、情報格差があり、スマホが苦手な方もいるため、このような支援は、今後も続けていく必要があると思う。

(3) 令和8年度社会教育・生涯学習事業計画について

資料冊子 資料4「令和8年度社会教育・生涯学習事業計画」に沿って、坂口生涯学習課地域学習担当課長より説明。以下の意見・質問が出た。

委 員	特徴的な項目について説明されたが、特徴的なというのは、力を入れているというような意味合いか。
行政職員	ご指摘のとおり、毎年力を入れてやっている事業。子どもの体験活動事業は、社会教育振興プランでも報告している。高齢者の事業については、介護保険からも支援をいただきながら、介護予防も目的の1つに含めており、講座の中で地域包括支援センター職員から話を聞く時間を設けている。
委 員	アーチェリー場を整備することになった理由は。
行政職員	競技人口は多くないが、以前から競技団体からの要望があった。1970年代には市内に民間のアーチェリー場があり、多くの人が親しんでいた背景がある。民間施設が閉鎖以降、大牟田に公設でのアーチェリー場設置の要望があったが、スポーツ振興くじからの助成金が活用可能となったため、市の負担を抑えながら整備を行う。競技人口が少ないからこそ協議に親しむ市民を増やしていきたい
委 員	新しい競技ができるようになると関心を持つ人も増えるのでぜひ進めて欲しい。
委 員	前は、大牟田警察署の近くにあったが、大牟田に弓道場が無いと聞いた。
行政職員	以前の弓道場廃止後、15年前に社会教育施設として、市が弓道場を1か所設置している。練習環境の情報周知が不足していることも考えられるので、努力する。
議 長	周知を図るようお願いする。
委 員	文化芸術の部分で、伝統芸能・伝統文化（渦いね踊り・銭太鼓踊り、ひゅうたん廻し、米はかり踊り）を守る活動があっても良いのでは。このままでは担い手不足で伝統文化が消えていく可能性がある。
委 員	渦いね踊り・銭太鼓踊り、米はかり踊りを合同で発表する場を設ける等の取り組みができないか。
議 長	市で伝統芸能を守る取り組みは。
行政職員	それぞれ地域で保存に取り組んでいただいている。伝統芸能が継続できるよう、記録の取り組みを紹介したり、以前の取組みを研究しながら伝統芸能等継続できるよう検討したい。
委 員	検討は、どこの課で行うのか。
行政職員	世界遺産・文化財室でも取組検討したい。
委 員	探せば伝統芸能、色々あると思う。市内の3つだけでは、1時間弱で終わるので近隣の伝統芸能も合わせて行う等やり方はある。
委 員	まなばんかんから、そういう人たちと一緒にやる方法もある。自分はまなばんかんに登録して活動している、以前は小学校で和太鼓を教えていたがコ

	コロナ感染症で出来なくなった。その後、校長が変わり終了になった。地域と学校とまなばんかと、一緒になってできないか。
委 員	やり方が1番大事。学校が地域を必要としているのは間違いない。地域も学校が必要。下準備が必要であり、お互いの立場を思いやって対応していかないと上手く行かず、二度と連携できなくなる事例は多い。だからコーディネーターが必要。地域が求めていることを学校に繋いでくれるコーディネーターがいれば、学校もすぐは無理でも取り組むきっかけになる。半歩、一歩ずつ信頼を積み上げていくしかない。性急にやらず、顔が見える関係をつくっていくしかないと思う。地道に地域からのアプローチを続けていくことが大事。
委 員	いきなり小学生ではなく、地区公民館のESD事業で地域の人を育成してはどうかと思う。
議 長	地域の中では連携を模索しているので、市も検討を。
委 員	地区公民館の役割は重要。自分達も何かの立場で協力していきたい。

(4) その他

- ・市民協働部指定管理者の選定について

資料「市民協働部指定管理者の選定について」に基づき、木下生涯学習課長より説明。(意見・質問なし)

- ・子育て情報誌「おおむたっ子」への社会教育委員メッセージについて

資料「子育て情報誌「おおむたっ子」応援メッセージテーマ提案書」について、蔵本生涯学習課次世代育成担当主査より説明。8月中に意見の提出を依頼。11月の社会教育委員の会議の際に、委員の皆様の写真を撮らせていただくよう併せて依頼。

◆委員等より報告・案内

蓮尾委員 … 9月に駿馬地区公民館で翔馬祭が開催される。実際どうしているか、ぜひご覧いただきたい。

西田委員 … 大牟田市子ども会育成者連絡協議会で、小学生を対象にイン・リーダー研修を行っている。主にリフレッシュおおむた等を会場に、子ども達の経験の場になる。参加者が少ないため、情報発信は今後も努めていくが、皆様にも共有をお願いしたい。

⇒次回会議 令和8年11月 予定